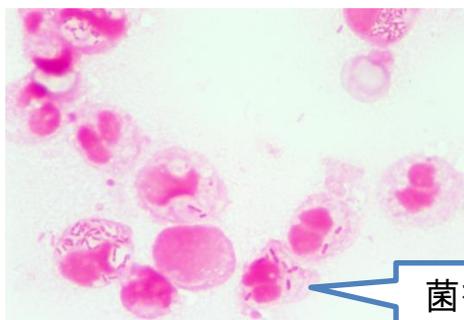
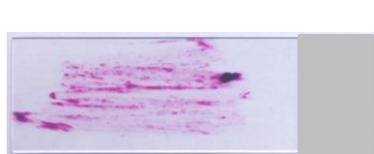


# 細菌検査

細菌検査は、感染症の原因となっている細菌や真菌を見つけ出し、どの薬（抗生物質）がその菌に効くかを調べる検査です。

## 〔顕微鏡検査〕

喀痰、尿、膿、血液などの検査材料をスライドガラスに塗り、染色して（グラム染色）、菌や白血球などを観察します。



グラム染色した検査材料

菌を食べている  
好中球

## 〔培養・同定検査〕

検査材料を細菌の成長に必要な栄養を含んだ寒天(培地)に塗り拡げて培養します。1日～数日間、菌のかたまり(コロニー)が目に見えるようになるまで育てて観察します。発育したコロニーを調べて(生化学的性状検査)、菌の種類を突き止めます。



24時間培養後の培地



生化学的性状検査

色の変化や発育の有無によって菌の性質を調べる試薬を使用して菌の種類を決めます。

## 〔薬剤感受性検査〕

感染症の原因になっている細菌に、どの薬（抗生物質）が効くかを検査します。この結果を踏まえて、治療に使う薬を選びます。



薬剤感受性試験

様々な種類の抗生物質が入ったプレートに細菌を入れて培養し、よく効く薬を調べます。